リレーのせん手になれなかったけれど

「運動会では、ぜったいにリレーのせん手になりたい！」
三年生になったときから、りさ子はひそかに心の中で思っていた。
リレーのせん手の活やくで、赤白のかちまけが決まってしまうこともある。
それだけに、リレーのせん手はみんなのあこがれのまとだ。
りさ子は朝、家のまわりをランニングしたりし、これまでいっしょうけんめい練習にはげんできた。自信があった。
ところが、リレーのせん手を決めるその日、りさ子は、わずかのタイムの差で、メンバーからはずれてしまった。
「もう、運動会なんて、どうでもいい！」
くやしいやら、自分にはらが立つやらで、りさ子は落ちこんだ。
自分がいやでいやでたまらない気持ちが、しばらくつづいた。
「りさ子ちゃん、いっしょにおうえんだんやらない？」
そんな中、クラスの友だちのまみが声をかけてきた。
りさ子のクラスで話し合い、クラスのおうえんだんをつくって、赤組をおうえんしようということになったのだ。

「えっ、わたしがどうして……。」
「だって、りさ子ちゃんはせいかくが明るいし、声もいいし、ぴったりだと思うの。」
「わたしなんかに、できっこないよ。」
今までリレーのせん手として活やくすることしか頭になかったりさ子は、一度はことわった。
でも、なかよしのまみのねっ心なさそいで、りさ子は休み時間、練習にさんかしてみることにした。
「フレー、フレー、赤組！」
「がんばれ、がんばれ、赤組！」
はじめは、ぜったいむりだと思っていたりさ子だった。
しかし、ほかのメンバーと声をそろえるうちに、だんだんと大きな声が出るようになった。
「すごくいいよ。その調子！」
まみがうれしそうに言った。
校庭のむこうがわで、せん手たちがバトンパスの練習をしている。
その様子を見ながら、りさ子は心の中でそっとつぶやいた。
（わたし、おうえんだんやってみようかな……）

今年の運動会は、赤組、白組ともにゆずらないたたかいがつづき、かちまけはリレーで決まることになった。

「フレー、フレー、赤組！」

おうえんだんの声にもねつが入る。りさ子やまみも力のかぎり声えんをおくったが、おしくもリレーは赤組がやぶれ、今年のゆうしょうは白組となった。

「おうえんだんをきゅうにおねがいしたのに、最後まで
がんばってくれてありがとう。」

閉会式の後、りさ子の顔を見ながらまみが言った。そのとき、

（わたし、がんばったんだ！）

なにか、むねの中がすっきりしていることに、りさ子は気がついた。

（和井内　良樹　作）

リレーの選手になれなかったけれど
（中学年 1-(5)）

(1) ねらい

自分の特徴に気づきよいところを伸ばそうとする心情を育てる。

(2) 資料の特質

リレーの選手になれずくじけそうになっても、最後までがんばろうとしたりさ子の内面に迫りながら、自分の特徴に気づき、自分のよいところを伸ばそうとする心情を育てたい。

(3) 展開例

1　自分の特徴について発表し合う。

2　資料「リレーのせん手になれなかったけれど」を読んで話し合う。

①リレーの選手から外れてしまったとき、りさ子はどんな気持ちだったか。

・自分はどうせだめな人間なんだ

②どんな気持ちから、りさ子は応援リーダーをやってみようと思ったのか。

・リレーの選手はあきらめて、他でがんばろう。

③閉会式の後、りさ子の胸の中がすっきりしたのはどうしてか。

・自分のよいところに気づくことができたから。

・自分はがんばり屋なんだと自信がもてたから。

3　自分のよいところについて考える。

4　映像を視聴する。

○P.P で学校やクラスの映像を視聴させる。[かがやく自分をめざして] のキャッチフレーズをおさえ、自分のよさを見つけ伸ばそうとする意欲を育てたい。

(4) 指導上の留意点及び工夫

展開例２の③では、「りさ子は自分のどんなよいところに気づいたのでしょう」と問いかけ、最後までくじけず努力するりさ子のよさに目を向けるようにしたい。

展開例３では、１で想起した自分の特徴をもとに考えるようにする。グループでアドバイスする活動を行い、記述に加筆させる。

〔本文イラストは酒井桃華による〕